

2020年は新型コロナに始まり7月豪雨災害など、大変な一年でした。2021年は県民の皆さんが安心して暮らせる県政をめざしてがんばっていきます。

2020年11月25日から12月11日まで第4回定例会が開催され、つつみ栄三県議は議案質疑で、コロナ問題や災害復旧について質問。えんど久子県議は2019年度決算に対する討論を行いました。

日本共産党大分県議団



日本共産党

県政報告

つつみ栄三
(大分市選出)



えんど久子
(別府市選出)

第4回定例会質疑



なりわい再建支援事業費補助金を

一日も早く被災者へ

つつみ栄三県議は「なりわい再建支援事業費補助」の10月末までの申請は県内で16件、申請準備中72件であり、交付決定件数は0件という状況を明らかにしながら、

泉街の被災者は「玖珠川の改修と一緒に進めなければならず、営業再開までの休業補償が必要」と求めました。

「これでは被災者に寄り添った復旧が迅速に行われるということにはならない」「提出書類の煩雑さも申請が遅れている原因」でもあるので、国に対して柔軟な対応をするように求めました。

また、日田市天ヶ瀬温



「地域の人が安心して生活できるよう

しっかり応援していく」と知事

知事は「申請準備中の54件の方々に対して直接訪問し相談に応じる体制をとっている」。「河川改修を待たずに事業再開し

ている方もいる。10件は補助金を申請しており県として迅速な再開を支援していく」と答えました。

新型コロナウイルス感染症

拡大防止対策について

全国でも大分県でも感染の第三波が襲ってきています。感染拡大防止対

策を数点にわたり質問しました。

感染リスクの高い施設に

重点的にPCR検査を

つつみ栄三県議は、「病院・介護福祉施設や学校など感染急増施設となり

ではないかと質問しました。

るリスクの高いところに対して、無症状の感染者を把握・保護するための定期的なPCR検査を行い、感染拡大を事前

に防いでいくことが大切だ。福祉保健部長は「リスクが高まった状況では必要な対策のひとつだが、現時点では濃厚接触者の検査等に注力したい」との答弁にとどまりました。

少人数学級の拡大を

「大分市内でも中学生や高校生までコロナ感染が確認された以上、リスクを削減するための少人数学級はどうしても必要だ」と、つつみ栄三県議。

教育長は、「少人数学級が望ましいことは論を

待たない」と答弁しながらも、構造的な教員不足や教室など教育環境の整備が整っていないとして、県独自で少人数学級を拡大する考えがないことを明らかにしました。

鍼灸マッサージ業への支援策について

多くの鍼灸マッサージ業の皆さんは、営業規模が小さくギリギリの営業であり、健康保険適用事業にもかかわらず医療や介護従事者のような慰労金はありません。つつみ栄三県議は「佐賀県は1施術所当たり10万円の支援金を支給している。大分県として独自助成すべ

きではないか」と質問。福祉保健部長は「包括支援交付金の拡充について全国知事会を通じて国に要望している」と答弁しました。「知事としてぜひ検討を」と求めましたが、知事は「よくよく考えていかなければならない」との答弁にとどまりました。

経営は大丈夫？ ホーバークラフト運航計画

旧ホーバークラフトは2009年に景気後退による空港利用者の減少、部品調達などの困難さから廃止されました。今回は(株)第一交通産業と協定を締結し、「船体と上屋など各施設整備は大分県が、約75億から85億円の負担で行い、第一交通産業株式会社が20年間運航する契約」となっています。また「運航事業の赤字については県として補填しない」と言っ

ていますが、今後経営が厳しくなった場合の県のかかりについて質問しました。企画振興部長は「航空需要は2023年までにコロナ前の水準に戻ると予測されている。今後20年間は事業継続が可能」と考えていると答えました。最終日につつみ栄三県議は、「経営不振による県の赤字補填が生じないよう注視すること」を求めました。

議会最終日で 大きな前進

「少人数学級の実現を 求める意見書」が 全会派賛成で可決

今回の議会では、共産党県議団として「少人数学級の実現を求める意見書」を提出しましたが、県民クラブからも同趣旨の意見書が出されたため、協議のうえ共産党県議団の意見書を取り下げ、県民クラブの意見書に賛成する立場をとりました。これまで長年にわたり、住民の皆さんと署名や請願、意見書などに取り組んできましたが、最大党派の自民党の反対によって不採択になってきたという経過もありました。しかし12月11日の最終日に、自民党も賛成に回り全会派賛成で採択されました。

えんど久子県議が賛成討論

えんど久子県議は、コロナ禍で一人ひとりの子どもたちとじっくり向き合うためにも、三密を避けるためにも、少人数学級を望む声が高まっていることや、萩生田文科大臣が「30人学級が望ましいと思う。不転の決意で臨む」と答弁していることなどを紹介し賛成討論をしました。

議員提出第二十六号議案

すべての子どもに豊かな学びを保障するために少人数学級の実現等を求める意見書

次代を担う子どもたちの健やかな成長は、すべての国民の願いであり、子どもたちが全国どこで生まれ、どんな環境で育ったとしても、等しく良質な学校教育を受けられるようにすることが求められる。

ことに今般の新型コロナウイルス感染症の拡大に対応するためには、安全・安心な教育環境を確保するという観点から、少人数学級の実現やICT教育環境の整備等を推進することが必要である。

よって、国会及び政府におかれては、新型コロナウイルス感染症の流行下においても、子どもたちに等しく良質な教育を保障するため、次の事項について措置を講じられるよう要望する。

- 一 きめ細かな指導の充実を図るとともに、新型コロナウイルス感染症禍における密集等を避けるため、少人数学級の実現を図ること。
 - 二 すべての子どもたちの学びを保障できる環境を整備し、「GIGAスクール構想」に基づき、人的支援及びICT機器等の配備を促進すること。
 - 三 教育環境の充実に必要な財源の計画的・安定的確保を行うこと。
- 右、地方自治法第九十九条の規定により意見書を提出する。

令和二年十二月十一日

大分県議会議長 麻生 栄 作

衆議院議長	大島 理 森 殿
参議院議長	山東 昭 子 殿
内閣総理大臣	菅 義 偉 殿
財務大臣	麻生 太 郎 殿
文部科学大臣	萩生田 光 一 殿

少人数学級の実現を求める意見書

えんど久子県議、 2019年度決算に 対する討論



四国への橋もトンネルもいらない

大分県と愛媛県を橋で結ぼうか、トンネルを掘ろうか、という豊予海峡ルート。この「夢の灯を消さない」と大分県は言います。南海トラフ地震の可能性が大だというのに。何兆円かかるかわからない橋やトンネルに莫大な経費をかけるべきではありません。

12月2日、昨年度の大分県の決算について、えんど久子県議はこの考えを述べました。



大企業への補助金より

中小業者へ支援を

来年度予算では、補助金漬けの企業立地はやめて、正規労働が当たり前のルールを作ることなども求めました。大分県は昨年度、8億8400万

円を立地企業に補助。工業団地開発推進事業費や企業立地推進等基金積立金に、約42億4700万円支出しています。

暮らし・福祉にこそ税金は使うべき

補助金を出さなくても大企業は立地条件や雇用等で判断し進出しています。企業立地補助金や来るあてのない企業の為に団地造成をするのではなく、コロナウイルスの影響でいっそう疲弊してい

る県民のくらしや福祉医療の応援や中小業者の支援策にこそ税金を使うべきです。

このような内容を含む決算の認定に反対したのは、日本共産党だけでした。

コロナ対策の抜本的な強化を

共産党県議団として「新型コロナウイルス感染症拡大防止」を求める要望を大分県に行いました。

コロナウイルス感染症に對し、大分市都町の飲食業者や病院職員の皆さんから切実な要望を聞き、さっそく県や国に届け、くり返し求めています。

2020年3月から感染が拡大していった新型



2020.12.17

災害復旧の

早期解決を

共産党県議団として「7月豪雨災害における早期の復旧を求める」要望を行いました。2020年7月に日田市や由布市を襲った集中豪雨災害で、天ヶ瀬温泉街や湯平・宝泉寺温泉街が甚大な被害を受けました。つみ栄三・えんど久子両県議は、さっそく災害現場へ足を運び、被災者の声や災害復旧に対する要望を聞き、大分県・国に對し「迅速に対応するよう」求めました。



国会や県議会で災害復旧の支援制度拡充を求めてきましたが、今回災害による住宅被害復旧支援が拡充されました

図のように国の「被災者生活支援法」が改正され、これまでは半壊では支給されなかった支援金が、中規模半壊まで支援金の対象になりました。しかし国の制度では基礎支援金の50万円がないので、県が50万円を独自に上乗せして支給するようになりました。また加算支援金についても、補修は50万円（国の規定）を80万円に、賃借でも25万円（国の規定）を50万円に、独自の上乗せをして支給するように拡充されました。

国制度 (令和2年12月4日施行・令和2年7月豪雨に遡及適用) (単位：万円)

区分 損害割合	基礎支援金	加算支援金		支援金計
全壊 50%以上	100	建設・購入	200	300
		補修	100	200
		賃借	50	150
大規模半壊 40～49%	50	建設・購入	200	250
		補修	100	150
		賃借	50	100
中規模半壊 30～39%	なし	建設・購入	100	100
		補修	50	50
		賃借	25	25

新設

こころの不調を感じたらご相談ください

新型コロナウイルス感染症などの影響で、生活に不安や悩みをお持ちの方も増えているのでは。不安や心の不調を感じたときには、一人で悩まずに専門窓口にご相談してみませんか。えんど久子県議はSNSでの相談や周知を求め、ひとり親家庭や心の相談はLINEでも可能になりました。

大分県こころのとからだの相談支援センター

TEL 097-541-6290

平日8:30～12:00、13:00～17:00

大分のいのちの電話

TEL 097-536-4343

24時間対応

大分県 こころの相談 (LINE)

LINEで友達登録をしてお使いください。

相談受付時間：毎週水曜日

19:00～23:00



えんど久子が求めてきたヘルプマーク（援助が必要な方のためのマーク）が実現しました。

議案に対する態度

		日本共産党	自由民主党	県民クラブ	公明党	しんせい大樹会	志士の会	無所属の会	採決	
議案	令和2年度大分県一般会計補正予算（第7号）	○	○	○	○	○	○	○	○	今回の補正予算は、防災対策のための補正予算であり、早急な対応をしよう求め、ホーバークラフト事業は将来県民負担が生じないよう、しっかりと協議をしていくことを求め賛成しました。
意見書	新型コロナウイルス感染症対策の充実・強化を求める意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	エッセンシャルワーカー（医療介護職やライフラインにかかわる職種など私たちの生活を支えている人々）に対する支援策の拡充を求める意見書で賛成。
請願	コロナ禍からいのちと暮らしを守る年金支給を求める意見書の提出について	○	×	×	×	×	×	×	×	年金生活者の暮らしを守るためにも年金の減額には反対なので賛成しましたが、県民クラブの議員は「減額は慎重な議論が必要」といながらも反対しました。

